

(令和4年2月)

種類	市況の概要
(青果部の動向) 青果全般	<p>2月の総入荷量は、前月からの冷え込みが続き多くの品目において生育が停滞したため、前年同月比で10%下回った。総取扱金額は、野菜及び果実ともに品薄高が目立ち、5%上回った。今後は気温上昇により生育は回復し、安定した入荷が予想される。</p> <p>3月は、近郷野菜では、菜の花が最盛期を迎える、たけのこや木の芽の入荷が始まる。果実では、不知火やせとか等の中晩柑類のほか、いちご類が最盛期を迎える。</p>
野菜	<p>野菜全般の入荷量は前年同月比で10%下回り、単価は20%上回った。</p> <p>根菜類の入荷量は前年同月比で22%下回り、単価は11%上回った。</p> <p>葉菜類の入荷量は前年同月比で9%下回り、単価は29%上回った。</p> <p>果菜類の入荷量は前年同月比で11%下回り、単価は10%上回った。</p> <p>土物類の入荷量は前年同月比で5%下回り、単価は35%上回った。</p>
果実	<p>果実全般の入荷量は前年同月比で10%下回り、単価は11%上回った。</p> <p>かんきつ類の入荷量は前年同月比で8%下回り、単価は6%上回った。</p> <p>りんご類の入荷量は前年同月比で12%下回り、単価は36%上回った。</p> <p>いちご類の入荷量は前年同月比で16%下回り、単価は14%上回った。</p> <p>メロン類の入荷量は天候が安定していたため前年同月比で20%上回ったが、単価は上位等級品の割合が高かったため6%上回った。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長だいこん	徳島、鹿児島、長崎、神奈川、香川などから入荷した。入荷量は前年同月比で31%下回り、単価は61%上回った。
西洋にんじん	鹿児島を中心に長崎、愛知、熊本、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は需要が低かったため38%下回った。
【葉菜類】	
はくさい	兵庫、愛知、宮崎、鹿児島、滋賀などから入荷した。入荷量は停滞していた生育が進んだため前年同月比で10%上回ったが、単価は需要が高かったため55%上回った。
キャベツ	愛知を中心に滋賀、和歌山、大阪、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で12%下回り、単価は72%上回った。
ほうれんそう	福岡、京都を中心に茨城、滋賀、和歌山などからも入荷した。入荷量は前年同月比で14%下回り、単価は32%上回った。
レタス	徳島、兵庫、長崎を中心に愛媛、岡山などからも入荷した。入荷量は前年同月比で39%下回り、単価は99%上回った。
【果菜類】	
きゅうり	宮崎を中心に高知、徳島、滋賀、佐賀などからも入荷した。入荷量は前年同月比で14%下回り、単価は3%上回った。
なす	高知を中心に岡山、徳島からも入荷した。入荷量は冷え込みの影響で生育が停滞したため前年同月比で15%下回ったが、単価は前

	年同月並みであった。
とまと	熊本を中心に福岡、三重、佐賀、愛知などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は安値で推移した前年同月と比べて10%上回った。
ピーマン	宮崎、高知を中心に韓国、鹿児島、沖縄などからも入荷した。入荷量は前年同月比で11%下回り、単価は5%上回った。
【土物類】	
ばれいしょ (メークイン含む)	北海道、鹿児島を中心に徳島、長崎からも入荷した。入荷量は前年同月比で3%下回り、単価は5%上回った。
たまねぎ	北海道を中心に静岡、兵庫、長崎、タイなどからも入荷した。入荷量は前年同月比で10%下回り、単価は109%上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
普通みかん	和歌山を中心に福岡、大分、香川からも入荷した。入荷量は前年同月比で12%下回り、単価は4%上回った。
伊予かん	愛媛から入荷した。入荷量は前年同月比で19%下回り、単価は5%上回った。
不知火	和歌山を中心に愛媛、佐賀、香川、福岡などからも入荷した。入荷量は前年同月比で11%下回り、単価は9%上回った。
富士 (サン富士含む)	青森を中心に山形からも入荷した。入荷量は前年同月比で18%下回り、単価は39%上回った。
王林	青森から入荷した。入荷量は生育が順調であったため前年同月比で62%上回ったが、単価はりんご全体の品薄高により18%上回った。
いちご	福岡、大分、熊本、長崎、佐賀などから入荷した。入荷量は前年同月比で16%下回り、単価は14%上回った。
アールスメロン	静岡を中心に高知、ホンジュラスなどからも入荷した。入荷量は天候が安定していたため前年同月比で21%上回ったが、単価は上位等級品の割合が高かったため5%上回った。